

Contents

- P.1 《巻頭言》 日本顎顔面インプラント学会 理事長 嶋田 淳
- P.3 《常置委員会の紹介》
- P.4 《各種委員会報告》 専門医制度委員会、専門医資格認定審査会、研修施設資格認定審査会、定款(会則)検討委員会、総務広報委員会、雑誌編集委員会、渉外委員会、社会保険委員会、薬剤関連調査委員会、学術委員会、医療委員会、財務委員会、診療マニュアル作成委員会、賛助会員制度促進委員会、脱タバコ社会実現委員会、診療ガイドライン作成委員会、倫理委員会、研修カリキュラム委員会、教育研修委員会、感染症対策委員会(名称変更)、用字用語委員会、広告のできる専門医推進委員会、会員データベース管理委員会、共同研究委員会(日本顔面補綴学会)
- P.14 《総会・学術大会の報告》 第26回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
《総会・学術大会のご案内》
- P.15 第27回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、APIS Winter Meeting 2023 in TOKYO
- P.16 第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、APIS Winter Meeting 2023 in FUKUOKA
- P.17 《2023年以降のインプラント関連学会案内》
《研修施設紹介》
- P.18 ①明海大学歯学部附属明海大学病院 口腔外科第1
- P.19 ②国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科
- P.20 ③福岡歯科大学 口腔インプラントセンター
- P.21 《会員情報》
- P.21 《事務局からのお願い》
- P.22 《教育研修会のご案内》
- P.23 《顎骨再建とインプラントによる治療指針発刊のご案内》
- P.24 《編集後記》

《巻頭言》日本顎顔面インプラント学会の今後

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会

理事長 嶋田 淳



P.I.Brånemarkの提唱によるオッセオインテグレーションの概念に基づいたデンタルインプラントが歯科界にもたらした恩恵について異論を挟むものは皆無であろう。チタン表面と骨組織との生物学的相互作用や遺伝子発現に至る分子生物学的研究、咬合咀嚼機能から神経反射機能へとつながる生理学的研究、GBRや骨移植に伴う骨造成からPRPなどの再生医療への展開、あるいはCAD、CAMから、シミュレーション、ナビゲーション、ロボット手術へといたるデジタルトランスフォーメーション革命など、インプラント治療とともに発展した発見と技術革新は、口腔機能管理を使命

とする歯科界にコペルニクスの転回をもたらしたといっても過言ではないだろう。

1980年代初めにヨーロッパから北米に渡ったオッセオインテグレーションは全部欠損から部分欠損へと変化し、1990年代には全世界的な展開と骨欠損症例への適応拡大と審美性重視の治療に、2000年代以降はラフサーフェスインプラントの開発による治療成績の向上と治療期間短縮、早期荷重への挑戦へと変革をとげてきた。また、CTデータの活用でIOSの登場で治療のデジタル化と正確さ、安全性がさらに高まっている。

単科の歯科大学口腔外科に在籍している私は、最近では顎変形症とインプラント治療を主体に診療を行っている。少なくとも癌の均霑化法に基づき日本癌専門医機構が設立されて癌専門医制度がスタートする以前は、私どもの病院でも毎週のように舌癌、歯肉癌、上顎癌、口底癌の切除と再建手術を行っていた。この制度ができる際、丁度

私の家内が参議院議員で厚生労働委員会に参加していた。法律の原案に歯科医師が含まれていないことを察知した家内は急ぎ私に連絡をしてきた。一大事と思った私は、当時口腔外科学会の理事長だった瀬戸暁一先生に至急連絡し、その後日本口腔外科学会からの働きかけによりがん治療専門医(歯科口腔外科)が加えられたと承知している。この法律の意図するところは癌の治療成績を上げるため、日本中どここの診療施設でも一律の治療が受けられるようにすることである。放射線療法や化学療法が行いたい単科の歯科大学で癌の治療が行いにくくなってきたのは、他でもない、この法律による政府の施策なのである。

日本顎顔面インプラント学会の理事長であるからというバイアスがかかっているとしても、これからの口腔外科を支えてくれる疾患群は、智歯抜歯は当然としても、顎変形症治療とインプラント治療に他ならないと考える。Googleの検索で「顎変形症」と打ち込むと日本形成外科学会のホームページがヒットするのをご存じだろうか?日本顎変形症学会ではないのである。「インプラント」で検索すると開業歯科医院が複数ヒットするが、日本顎顔面インプラント学会も日本口腔インプラント学会もトップヒットはしない。この点は学会で何か対応を考える必要があるかとも思うが、顎変形症に比べてインプラントという用語がそれだけひろく認知されている証でもある。歯科医院の3割以上でインプラント治療は行われており、年間のインプラントの出荷本数は40万本以上とも聞く。このような普遍性がありかつメリットの多いインプラント治療を、外科処置が得意な口腔外科医が積極的に行わない手はないであろう。卑近な例ではあるが、収益性も向上できる。しかし多くの口腔外科医はインプラントに全く興味がないようである。本学会の会員数が伸び悩み、また昨年満を持して出版した世界初の広範囲支持型装置等のガイドラインも多くは売れず、理事長としては暗澹たる気分である。

本来なら、このニューズレターの内容で報告できると考えていた、日本口腔インプラント学会と共同で認定される日本歯科専門医機構認定インプラント歯科専門医についても、口腔インプラント学会との相違点が多々あり、まだ先が見えない。

日本顎顔面インプラント学会としては専門医機構の指導のとおりこの新たな広告可能な専門医を輩出するための活動を継続していくことにしているが、しかし、新たな専門医が認定された場合は、インプラント治療のための受信先医療機関の選択の基準となる制度である。インプラント歯科専門医は、インプラント治療の安全と確実性の担保につながり、さらにはそれを通じて口腔外科医、口腔外科診療施設の活性化を刺激し、また顎顔面インプラント学会の会員数増加と学術の発展につながることを願いつつ、確信している。

《常置委員会の紹介》

2023年4月1日、公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 常置委員会新規および継続委員長が理事会において承認されました。各委員会委員長により副委員長および委員が選出されました。(★はオブザーバー)

「常置委員会・委員長・委員」一覧 (2023年4月1日)

- **専門医制度委員会** (専門医制度規則により9名以内)
委員長 加藤仁夫
副委員長 藤井俊治
委員 小倉 晋、河奈裕正、矢島安朝、立川敬子、廣田 誠、
 昉生田整治 ★高森 等(名誉会員)
- **専門医資格認定審査会** (専門医制度規則により8名以内)
委員長 福田雅幸
副委員長 野口 誠
委員 矢郷 香、松尾 朗、小林正治、菅野貴浩、山下佳雄、
 金子貴広
- **研修施設資格認定審査会** (専門医制度規則により6名以内)
委員長 日比英晴
副委員長 栗田 浩
委員 長尾 徹、柳井智恵、代田達夫、村田 勝
- **総務広報委員会**
委員長 又賀 泉
副委員長 矢郷 香
委員 石垣佳希、小林正治、宮本郁也、丸川恵理子、
 昉生田整治、木津康博
- **定款(会則)検討委員会**
委員長 野口 誠
副委員長 松尾 朗
委員 矢郷 香、山下佳雄、吉村仁志、岡本俊宏
- **財務委員会**
委員長 長尾 徹
副委員長 近津大地
委員 佐藤淳一、矢郷 香、黒岩裕一郎
- **教育研修委員会**
委員長 矢島安朝
副委員長 山下佳雄
委員 福田雅幸、城戸寛史、廣安一彦、佐藤 聡、武知正晃
- **雑誌編集委員会**
委員長 野口 誠
副委員長 山下佳雄、古谷義隆
委員 加藤仁夫、福田雅幸、立川敬子、黒岩裕一郎、
 小倉 晋、小山重人、関根秀志
- **用字用語委員会**
委員長 松尾 朗
副委員長 立川敬子
委員 塩田 真、佐藤 聡、小倉 晋、近津大地
- **渉外委員会**
委員長 高橋 哲
副委員長 宮本郁也
委員 河奈裕正、北村 豊
- **社会保険委員会**
委員長 河奈裕正
副委員長 外木守雄
委員 近津大地、川本義明、廣田 誠、宗像源博、堀江伸行
- **学術委員会**
委員長 城戸寛史
副委員長 加藤仁夫
委員 佐藤淳一、植野高章、岡本俊宏、関根秀志
- **倫理委員会**
委員長 河奈裕正
副委員長 柳井智恵
委員 佐藤淳一、石崎 憲、富原 圭、永松榮司(弁護士)
 ★福田仁一(名誉会員)
- **医療委員会**
委員長 藤井俊治
副委員長 古谷義隆
委員 立川敬子、金子貴広、鶴澤一弘、古賀陽子
- **薬剤関連調査委員会**
委員長 松尾 朗
副委員長 矢郷 香
委員 河奈裕正、菅野貴浩、小山重人、昉生田整治、
 古谷義隆
- **脱タバコ社会実現委員会**
委員長 長尾 徹
副委員長 濱田 傑
委員 瀬戸皖一、河奈裕正
 ★菅井敏郎(名誉会員) ★福田仁一(名誉会員)
- **研修カリキュラム委員会**
委員長 藤井俊治
副委員長 矢島安朝
委員 高橋 哲、喜久田利弘、昉生田整治、河奈裕正、
 山下佳雄
- **賛助会員制度促進委員会**
委員長 高橋 哲
副委員長 小倉 晋
委員 立川敬子
- **診療ガイドライン作成委員会**
委員長 菅野貴浩
副委員長 柳井智恵
委員 福田雅幸、堀江伸行、立川敬子、小山重人
- **広告のできる専門医推進委員会**
委員長 瀬戸皖一
副委員長 藤井俊治
委員 矢島安朝、矢郷 香、菅野貴浩、福田雅幸、
 日比英晴、加藤仁夫 ★福田仁一(名誉会員)
- **診療マニュアル作成委員会**
委員長 矢郷 香
副委員長 木津康博
委員 藤井俊治、河奈裕正、丸川恵理子
- **感染症対策委員会(名称変更)**
委員長 瀬戸皖一
副委員長 高橋 哲
委員 関谷秀樹、廣安一彦、丸川恵理子
- **会員データベース管理委員会**
委員長 藤井俊治
副委員長 宮本郁也
委員 関谷秀樹、福澤 智、金子貴広
- **共同研究委員会(日本顎顔面補綴学会)**
委員長 菅野貴浩
副委員長 小山重人
委員 高橋 哲、山下佳雄、柳井智恵、堀江伸行

《各種委員会報告》

専門医制度委員会報告

専門医制度委員会委員長 加藤仁夫

高森 等前専門医制度委員会委員長の後任として拝命しました加藤仁夫です。これまでも専門医制度委員として、高森 等委員長、藤井俊治副委員長ならびに委員の皆様と一緒に専門制度の確立に努めてまいりました。現在、専門医制度委員会は委員長 加藤仁夫、副委員長 藤井俊治先生、小倉 晋先生、河奈裕正先生、矢島安朝先生、立川敬子先生、廣田 誠先生、高森 等先生、萌生田整治先生 の9名が任にあたっています。2008年に専門医制度が発足しましたが、黎明期でもあり、専門医制度規則は口腔外科学会専門医制度に準じて作成しました。その後数回にわたり改訂を繰り返して現在に至っております。

現在、一般社団法人日本専門医機構ならびに日本口腔インプラント学会と協議している「新たなる専門医制度」構築のためには専門医研修施設の実態を把握しなければならず、2020年から研修施設のインプラント活動実態調査を始めました。その結果研修施設によってはインプラント治療の実績がほとんどない施設、逆に多くの症例を行っている施設、顎骨支持型装置を実施している施設あるいはインプラント関連トラブル症例を多く経験している施設など千差万別でした。いずれの施設も地域医療には欠かせない医療機関であることがわかりました。しかし、インプラント歯科専門医を育てる研修施設として適しているかについては多くの疑問が残りました。では研修施設にはどのような設備を整え、どこまでの専門教育が必要で、どのようなOJT (On The Job Training) をしていかなければならないかを検討する必要があります。すなわち、日本専門医機構が目指す「インプラント歯科専門医」を見据えた研修施設が必要で、そのための専門医制度規則が必要になってきました。今後は専門医制度規則ならびに専門医制度施行細則の大幅な改定を行います。さらに准研修施設の在り方についても検討する必要があります。

・研修施設・准研修施設の活動報告書の提出について

今年も施行細則第35条ならびに第36条に従い、研修施設・准研修施設の活動報告書の提出をお願いし、多くの研修施設から報告を受けました。ご協力ありがとうございました。

・資格更新について

2024年度更新申請書提出の締め切りは2023年8月31日です。(専門医、指導医、研修施設、准研修施設)

更新申請書作成に際しては「専門医制度施行細則」「専門医制度に関する内規」「申請書作成に際しての注意事項」「2024年度更新申請書作成時の注意事項」を早い時期に熟読して準備をお願いします。

特に専門医と指導医(60歳未満)更新時には「更新日

までの5年間に本学会学術大会で1回以上発表(共同発表を含む)を行う]ことが必須になりました[専門医制度施行細則第34条2) 参照]。ただし今回の更新では猶予期間として今後3年間(2026年3月31日まで)の本学会学術大会での発表を認めることになりましたので、不足の場合は申請書提出時にその旨を記載した一文を付けてください。

専門医資格認定審査会報告

専門医資格認定審査会委員長 福田雅幸

・2023年度日本顎顔面インプラント学会専門医試験結果について

専門医資格認定審査会では、2023年度は9名の専門医新規申請者に対して書類審査を行い、書類審査合格者に対して筆記および面接試験を行いました。書類審査で多く問題となるのは医療機器の適応外使用であり、歯科インプラント治療のために薬事承認された医療機器の使用は問題ないのですが、適応外の医療機器の使用に関しては医療機関の倫理委員会で承認されたものでなければなりません。

本学会専門医取得のためには、インプラント治療に関する経験が30症例以上必要で、その他骨造成手術や全身管理に関する報告、論文や学会での発表などの業績が必要です。残念ながら、毎年多くの申請書類に不備があります。前述の医療機器の使用条件を含め、最新の申請要綱(http://www.jamfi.net/senmoni/senmoni_shinsei.html)、専門医制度規則、専門医制度施行細則を熟読の上、余裕をもって申請書類をお送りください。

研修施設資格認定審査会報告

研修施設資格認定審査会委員長 日比英晴

2022年度に申請があったのは研修施設として2件、准研修施設として1件でした。資格認定審査の結果、適格であると判定し、専門医制度委員会に答申いたしました。なお准研修施設の申請資格は、本学会指導医または専門医が1名以上常勤し十分な指導体制がとられていることを要する(専門医制度規則)、准研修施設の施設長は他の准研修施設長と重複はできない(内規)とされていますのでご注意ください。

総務広報委員会報告

総務広報委員会委員長 又賀 泉

総務広報委員会は、委員長の又賀以下、副委員長矢郷 香先生、委員として宮本郁也先生、石垣佳希先生、小林正治先生、さらに本年4月より筋生田整治先生、丸川恵理子先生、木津康博先生を新たな委員に加えて委員会が構成されました。

総務広報委員会の業務は学会運営の円滑化のために、理事長、常任理事会、理事会、常置委員会、運営審議委員会および事務局との相互情報の円滑化を図る総務の役割と、ホームページの充実とニュースレターの発行を行い、広報活動を通じて会員に適時情報を伝達することであると考えています。

一昨年よりCOVID-19の世界全体における感染症により、学会の運営として極めて厳しい時期を迎え学会活動も支障をきたしていましたが、一方理事会や常置委員会の情報交換が電子情報の交換で、理事会や委員会もすべてweb形式で開催され経費削減に貢献する利点もありました。face to faceで行われる委員会とweb形式と比較すると、どうしても開催日時を選定や調整に制限があり、時間の関係で意見が一方通行になりがちでしたが、最初戸惑ったweb会議も回数を重ねますと、夕食後や休日の開催時間に制限がなく開催ができるという利点がわかりました。従来の交通費や宿泊費などの委員会参加経費が節約されたことでしょうか。一方では開催日時の調節や、zoom設定、毎回会議前資料の配布などの準備に大変な苦勞をされた事務局に深く感謝申し上げます。コロナ後の会議の運営方法については打ち合わせが必要になりますが、face to faceの会議が増えることは間違いなさそうです。

例年発行していますニュースレター発行の時期がきました。今回は9号を数えますが、学術誌に挟み込む紙媒体でなく、ニュースレターを電子化してhome pageに掲載するメールニュースレターで紹介の準備をしています。電子化しますとreal timeに情報公開でき、印刷と発送の経費が不要になります。これからは学会雑誌も国際誌同様に電子ジャーナルの比重が大きくなるかもしれません。ニュースレターの作成は、私と副委員長の矢郷 香先生を中心に原稿依頼や情報の収集を行なってきましたが、今回は新委員の中から筋生田整治先生が9号の原稿収集と編集を行ってくれています。今後委員交代で企画してゆこうと思っています。ニュースレターは通常学会誌に掲載できない常置委員会活動や学術大会および教育研修会関連の記事を掲載してきましたが、今後より自由で新しい企画を広げ、さらに会員の意見も投稿していただき、ニュースレターを通じて学会の充実をさせたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

定款（会則）検討委員会報告

定款（会則）検討委員会委員長 野口 誠

本委員会は委員長松尾 朗、副委員長以下6名で、スタートしました。現在までのところ、検討事項はなく、委員会は開催されておりません。今後、歯科インプラント専門医制度の方向性によっては、種々制度設計の見直しに合わせる形で、会則の検討も必要になるところと考えております。

財務委員会報告

財務委員会委員長 長尾 徹

いつも学会の健全な事業運営にご協力いただき誠にありがとうございます。公益社団法人であるため学会の会計はプラス収支となることは好ましくありませんが、財務状況は2022年度決算では新型コロナの影響でWeb会議などを利用することにより経費削減ができ黒字でした。今年度に関しましては、まず事業支出は前年度対比で127%と増額を見込んでいます。これは各委員会ではWeb会議を多用していますがコロナ自粛が一段落してきますと事業拡大に伴い対面の会議開催が予測されること、学術大会運営費支出はここ数年開催規模が1,000万から1,300万程度と上昇していること、広告可能な専門医確立に向けたインプラント診療マニュアル本の制作費などが主な理由です。一方、事業費収入に関しては今期の会員数は例年通り微増を見込んでおります。昨年発刊した「顎骨再建とインプラント治療指針」の在庫分は経理上学会の貯蔵品として計上されていきます。学会員の方々には会員特別価格で販売していますので広くアピールしていただき、一冊でも多く販売して貯蔵品の量を減らしていくことが新規会員の増加とともに収支改善の上でも重要となってまいります。また、例年事務局からのお知らせにも記載していますが年会費納入を滞らないようご協力をお願いいたします。今後も削減できる部分は削減し、その経費を公益社団法人として新しい公益事業に投入していく予定です。

教育研修委員会報告

教育研修委員会委員長 矢島安朝

2022年度の第47回教育研修会は、佐賀大学医学部歯科口腔外科学講座 山下教授実行委員長のもと、8月28日にWeb開催されました。メインテーマは「インプラント補綴を改めて学ぶ」という今までにないテーマとなりました。歯科専門医機構による広告可能な口腔インプラント専門医制度も整いつつある中で、機構側は「広告可能なインプラント専門医取得のためには、いくら専門が口腔外科だと主張しても、インプラント補綴の知識や経験がない者にインプラント専門医資格を与えるわけにはいかない」と明言しています。今回のテーマは佐賀大学口腔外科学講座で決定されましたが、機構側の意見を踏まえての、まさに時期を得た主題であると高い評価をいただきました。当然、参加者数は過去最高の189名に達し盛会裏の内に終了となりました。佐賀大学歯科口腔外科学講座の先生方に心から感謝申し上げます。

なお、上記以外に4学会合同研修会として2022年2月10日(木)～3月10日(木)オンデマンド方式で開催され、本学会からも多くの参加をいただきました。

改めて両研修会に参加されました会員各位に感謝申し上げます。

雑誌編集委員会報告

雑誌編集委員会委員長 野口 誠

本委員会に長年、副委員長として携わってこられた又賀 泉先生がご退身されました。本当に長い間、お力添えいただき、心より感謝申し上げます。新たな副委員長は、山下佳雄先生と古谷義隆先生のおふたりをお願いいたしました。斬新な発想から、より質の高い専門誌になるよう、お手伝いいただけるものと期待しています。

会員の先生方におかれましては、顎顔面の形態と機能回復のための埋め込み型生体材料に関する症例、基礎、臨床研究の成果を、本誌へ誌上報告していただきますようお願い申し上げます。

用字用語委員会報告

用字用語委員会委員長 松尾 朗

用字用語委員会は、新たに委員長 松尾 朗以下、副委員長 立川敬子先生、委員 塩田 真先生、佐藤 聡先生、小倉 晋先生、近津大地先生で構成されています。

インプラントは新しく発展途上の分野であるため、用語に関してもさまざまな混乱があるようです。式守前委員長の時代から、関係各所から要請がある都度本委員会にて対応してきました。しかし、昨年、本学会の成書として顎骨再建とインプラントによる治療指針発刊の際にもさまざまな用語の問題が生じ、さらに、現在『インプラント歯科専門医実践マニュアル(仮)』を作成中の診療マニュアル作成委員会や雑誌編集委員会でも常に用語に関する疑義が生じており、そろそろ本学会での用語の統一を行っていかなくてはならない時期と痛感しております。

そこで、今年度は短期的には診療マニュアルの用語に関する用語チェック、中長期的には本学会における重要な用語の統一を行ないたいと考えており、現在、関係する先生方からヒアリングさせていただいているところです。これを基に、早急に問題点を洗い出し、委員会で関連用語の選定を討議する予定です。非常に重要な事業とされますので、委員会討議だけで決定せず、パブリックコメント等で皆様にも幅広く御討議いただいたうえ、最終的には学会における用語の策定を目指しております。ご協力を仰ぐ点が多いと思いますのでよろしくお願ひします。

渉外委員会報告

渉外委員会委員長 高橋 哲

渉外委員会では海外の諸学会特にアジアの学会等との連携強化に努めています。

現在活動はAPISおよびSASOMIとの連携が中心となっていますので、それぞれの活動状況について報告します。

1.Asia Pacific Implant Society (APIS)の活動アップデート

APIS Secretary General 高橋 哲、APIS Correspondent 宮本郁也

第21回となるAsia Pacific Implant Society(APIS)は、当初、2023年3月に中国が主催で開催の予定でした。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴って開催がかなわず、今年のAPIS開催されは延期となりました。各国との話し合いを経て、一年順延し2024年3月29日～31日にあらためて中国で開催される予定です。それに伴いまして当初2024年1月に予定されていた第22回APISは、2025年1月17日～19日にインド・バンガロールでの開催が予定されています。第22回は、初めてインドが主催となる大会です。

2022年11月26日に第5回目となりましたAPIS Winter Meetingが、第26回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会と併催という形で、東京医科大学近津大地大会長のもと、オンサイトとWeb配信によるハイブリッド形式で開催されました。メインテーマは、“インプラント卒後研修を考える”でした。今回は、インドと韓国からの発表はなく、台湾から、“Taiwan’s oral health care issues and responses in the post-COVID-19 era”, “Advance hydraulic sinus lift, predictable protocol for 1-2 mm of basal bone”と題し、コロナ下での状況を鑑みた歯科の取り組みや、サイナスリフトに関する演題の発表、中国浙江大学のHuiming Wang先生から“Current status & prospects for postgraduate education in dental implantology in Zhejiang University”と題し、浙江大学でのインプラント研修の取り組みに関する発表でした。仮想現実を用いた歯科大学での実習風景を発表され、先進的な取り組みで感銘を受けました。日本からは福岡歯科大学の城戸先生が“Toward “on the job training” for general clinical dentists at university hospitals”と題し、on the job trainingをインプラントの研修にいかに関与するか、という時宜を得た発表がありました。リモートでのセッションでしたが、活発な質疑がかわされ有意義な会となりました(写真1)。また2023年3月10日、台湾口腔顎顔面口腔外科学会開催時、台湾のAPISのメンバーに招待され、日本から参加していたAPISのメンバー(瀬戸、管野、高橋)が韓国から参加していたJun-Young Paeng APIS前大会長とともに招待されました。非公式な会合でしたがAPISの開催時

期などについての活発な意見交換がなされました(写真2)。引き続き、第27回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会におきましても、APIS Winter Meetingが併催される予定です。

APISは、日本顎顔面インプラント学会の協力のもとWinter Meetingを合わせますと、毎年日本でも参加できる機会があり、国際学会を手軽に味わうことができます。若い会員の皆様にも積極的に参加していただき、国際学会の経験値を上げていただければと思います。よろしくお願いいたします。



写真1 2022年11月APIS Winter Meeting



写真2 2023年3月台湾口腔顎顔面外科学会開催時、台湾のAPISメンバーと

2.SASOMI(南アジア顎顔面インプラント学会)の活動記録

渉外委員会:高橋 哲、宮本郁也

第3回SASOMI(南アジア顎顔面インプラント学会)が、2022年12月22日Dr. Madhukant Shah先生の主催でインド・グジャラート州アーミダバード市College of Dental Sciences and Research Centreで開催されました。国際会議のテーマは、Advanced Solutions in Implant Therapyでした。日本からの演者は、直接現地に参加された高橋 哲、阪井丘芳、北村 豊、渡辺孝夫の各先生方とリモートにて瀬戸皖一、嶋田 淳、管野貴浩、里村一人の先生方が講演されました。また、会場にはJapan Boothが設けられ、日本の製品などを展示いたしました。

今回、ベンガルール(バンガロール)の病院でコロナ感染症の一つの合併症としてのムコール症患者に関する講演と病院にて直接、患者の視察を行いました。COVID-19関連ムコール症に関しては、インドの先生方より当学会のofficial JournalであるJournal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine and Pathology誌に

投稿予定です。その他、会議においては様々なことが相談されました。今後、幅広い分野で日本とインドの学術関係を強化することで一致しました。第4回SASOMIに関し、現時点での情報はございません。



写真1 アーメダバードの歯科大学で開催されたSASOMIの学会での講演の様子

瀬戸先生、嶋田先生、管野先生、阪井先生の講演はWebにて配信され、私（高橋）、北村先生、渡辺先生は現地にて講演を行なった。



写真2 ベンガロールの病院見学の様子
ムコール症患者で上顎部分切除を受け、顎補綴を受けた患者の診察風景。北村先生と私（高橋）。



写真3 アーメダバードの歯科大学でのSASOMIの学会
演者はSASOM会長のDr. Girish Rao。

社会保険委員会報告

社会保険委員会委員長 河奈裕正

社会保険委員会は、外木守雄副委員長、川本義明委員、近津大地委員、廣田 誠委員、堀江伸行委員、宗像源博委員、私とで務めてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

報告事項としては、令和5年3月7日に、日本歯科医学会主催による令和6年度診療報酬改定医療技術評価提案書に係る説明会がオンラインで開催され出席しました。

また4月に、当学会が主体となって申請して採用された令和4年度医療技術の、「ナビゲーションによる画像等手術支援加算」、「広範囲顎骨支持型装置の暫間補綴装置の装着」、「4歯相当以上を基準とした広範囲顎骨支持型装置埋入術」について、厚生労働省に評価報告書を提出しました。

現在、令和6年度診療報酬改定に向けて、令和3年にご協力いただきましたアンケート結果を基に、「下顎無歯顎に対する広範囲顎骨支持型装置の適応」、「顎骨嚢胞を含めた3歯相当以下の歯槽骨欠損、顎骨欠損への広範囲顎骨支持型装置の適応拡大」、「先天性無歯症の少数歯欠損部への広範囲顎骨支持型装置の適応拡大」、「広範囲顎骨支持型補綴の増点」、「広範囲顎骨支持型装置の歯周病学的管理料の加算」、「広範囲顎骨支持型装置埋入手術における実物大臓器立体モデルや患者適合型手術支援ガイドによる画像等手術支援加算」を、日本歯科医学会ご指導の下、厚生労働省への申請作業を進めています。

学術委員会報告

学術委員委員長 城戸寛史

長らくお勤めいただいた加藤仁夫先生の後任として、本年度より学術委員長を拝命いたしました。業務の引き継ぎのためこれまでの活動内容を加藤先生にリストアップしていただいたところ、その業務はたいへん膨大で、これまでの加藤先生のご苦勞に改めて感謝申し上げます。及ばずながら、学術委員会の業務が滞らないように、精一杯務めさせていただきます。

加藤先生にまとめていただいた現在継続して行われている業務内容は以下のとおりです。

1. 学術大会時の大会長賞などの審査(担当:学術委員長、副委員長中心に実施)

①口頭発表全演題に対する審査員の配置:審査員は、座長、学術委員あるいは編集委員、学術委員あるいは編集委員が推薦するインプラントに精通している会員から選出します。

②評価票の準備:学術大会の前にアンケート調査を行い、審査員を決定します。

③審査業務:審査員は本部で評価票を受け取り、各会場で発表に審査を行います。審査後に評価表を提出し、一覧表を作成します。

④各賞の決定:学術大会の2日目の午前中に審査を終え、総会の前に大会長、理事長、学術委員長により大会長賞を決定します。

⑤総会時に発表:受賞者は発表内容を学会誌に投稿することが必要であることを説明します。

2. インプラント手術関連の重篤な医療トラブルアンケート調査(3年毎に実施)

第1回目の調査は、矢島安朝委員が担当し、第2回および第3回目の調査は、河奈裕正委員が中心となって実施され、すでに本学会雑誌で発表されました。

2018年1月1日～2020年12月31日の第4回目の調査は、私の担当として集計中です。2021年1月1日～2023年12月31日の第5回目の調査は、まもなく担当者を決定します。

3. インプラント手術関連の重篤な医療トラブルアンケート調査まとめ

河奈裕正委員を中心として、9年分の調査内容を論文にまとめて英文誌に投稿予定です。

4. 人工骨などの未承認材料の承認申請についてPMDAと協議

佐藤淳一委員を中心に、矢島安朝委員、加藤仁夫委員、植野高章委員が担当し、承認申請を行います。

5. 赤坂若手奨励基金

2020年に故赤坂庸子先生からの寄付を基金として、若手研究者の育成のための研究補助金制度が設立されました。毎年、40歳以下の会員に向けて研究補助金の申請を公募し、学術委員を中心として審査を行い、採択者を決定します。

6. ヒューフレディ賞(ポスター発表に対する学会賞)

今年度から開始する予定のポスター発表に対する表彰です。具体的なことはこれから協議して決定します。

7. その他学術委員会に提案されている業務ならびにテーマ

①ザイゴマインプラントに関するアンケート調査～実施している理由と実施しなくなった理由など～

②下顎歯肉癌の治療と歯科インプラントによる咀嚼機能回復のアンケート調査

以上のように学術委員の業務は多岐にわたり、学会にとって重要なものが多く含まれます。加藤前委員長のご指導の下、業務が滞らないように頑張りますので、多くの会員の先生方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

倫理委員会報告

倫理委員会委員長 河奈裕正

倫理委員会は、柳井智恵副委員長、石崎憲委員、佐藤淳一委員、富原圭委員、弁護士委員、私とで務めてまいります。また、長年本委員会をご牽引いただいた前委員長の福田仁一先生には、引き続きアドバイザーとしてご指導いただくようお願いしています。学会の定める研究及び臨床における倫理綱領に則った活動をしてまいります。どうぞ宜しくお願いいたします。

医療委員会報告

医療委員会委員長 藤井俊治

医療委員会ではインプラントに関する治療歴を患者さんが把握するため、その後患者さんが受診する医療機関の医療データとして反映させるため、国際インプラント手帳の作成を行っております。また、広告可能なインプラント歯科専門医がスタートすれば、この国際インプラント手帳は治療行為の一環として提供しなければならない必須のアイテムとなります。

現在さらに利用しやすい手帳となるようにWebによる委員会を開催して改良しておりますので、今年度中に新しい国際インプラント手帳を学会HPに掲載の予定です。

薬剤関連調査委員会報告

薬剤関連調査委員会委員長 松尾 朗

薬剤関連調査委員会は、新たに委員長松尾 朗、副委員長矢郷 香先生、委員河奈裕正先生、菅野貴浩先生、小山重人先生、蒔生田整治先生、古谷義隆 先生で構成されています。

薬剤関連調査委員会では朝波惣一郎前委員長の許で2013年にビスフォスフォネート投与患者における歯科インプラント治療に関するアンケート報告(顎顔面インプラント誌13巻、29-39,2014)の調査を他学会に先駆け行いましたが、その後、骨吸収抑制薬はビスフォスフォネートだけでなくデノスマブなどの開発や投与法の広がり、さらに血管新生阻害薬による顎骨壊死等もポジションペーパー上にも記載されるようになり、それに対応した様々な知見も得られるようになりました。2022年にAAOMS、2023年には本邦のMRONJに対するポジションペーパーが改正されており、これを受け当委員会では前回の調査からちょうど10年の節目であり、嶋田理事長のご許可を得て、新たな調査を開始すべく委員会内で早急に検討して行く予定です。内容が固まり次第、研修施設、準研修施設にアンケート調査をお願いする所存ですが、前回にも劣らない充実した調査とし、本学会がインプラント専門医に相応しい学会であるとさらに周知されるよう努力していきたいと考えております。皆様、アンケートの際にはご協力の程よろしく願いいたします。

脱タバコ社会実現委員会報告

脱タバコ社会実現委員会委員長 長尾 徹

1. タバコ関連企業関係の学会入会・学会発表・論文投稿に対する各学会の対応について

歯学系(10学会)合同脱タバコ社会実現委員会ではタバコ関連組織からの学会入会・学会発表・論文投稿に対する各学会の対応について意見交換しながら委員会として合同で受理しない方向で進めています。この問題をいま歯科界で議論する理由は2つあります。1つ目は、ここ最近、タバコ会社の新たな販売戦略として、「加熱式タバコは従来の煙の出るタバコに比べて健康へのリスクが低い」と主張して販売攻勢にでています。そしてわきの甘い歯科界に付け込んで歯科医師を宣伝広告塔にしようとしています。2つ目は、「たばこ産業、関連企業から経済支援を受けている学会発表、論文の取り扱い」についての基本的な問題です。国民の健康を目的とした学術活動と研究発表の自由とどちらが重要かということです。これについては世界中の学会でさんざん議論され結論が出ています。そもそも学会は科学的に健全な学術活動あつての「発表の場」であります。その中でタバコ会社が自社の利益のために都合の悪い結果を隠匿し科学をゆがめてきたという事実を、学会がこれまで利益相反開示や査読では見抜けな

かったという反省があります。今日では研究者がそのような団体からお金をもらって発表することは社会倫理的に認められないということを改めて認識する必要があります。

WHOによる喫煙のインプラントの成否に関するリスクは、系統的レビューとメタアナリシスの結果、グレードIIとしていません。一方で、ニコチンがインプラントのオッセオインテグレーションに及ぼす影響や口腔の健康に影響を与えることは明らかです。本委員会が中心となって実施した全国調査で非喫煙者と比較した現在の喫煙者のインプラント失敗の調整オッズ比は、初期インプラント喪失で2.07(95% CI 1.19-3.62)、後期インプラント喪失で1.48(95% CI 0.92-2.37)という結果が出ています(Int J Oral Maxillofac Surg.2021)。本学会のホームページ挨拶で嶋田理事長は、「国民医療としてのインプラント治療の確立等を中心に、学会活動を行っていく」と述べておられます。これを広く社会にアピールするためにも「たばこ産業、関連企業から経済支援を受けている学会発表、論文は受理しない」という立場を学会として明らかにすることは重要です。先回の理事会および総会でこの立場を支持することが承認されています。本件については歯学系(10学会)合同脱タバコ社会実現委員会で引き続き本学会が主導となって進めてまいりますので会員の皆様のご理解をよろしくお願いいたします。

2. その他

禁煙推進学術ネットワークの今年度の第5回学術会議は、日本呼吸器学会(高橋和久会頭、大和 浩大会長)、日本呼吸ケア・リハビリテーション学会(黒澤 一大会長)、日本口腔インプラント学会(阪本貴司大会長)の下で開催されます。詳細は未定ですのでホームページをご参照ください(<https://tobacco-control-research-net.jp/index.html>)。

研修カリキュラム委員会報告

研修カリキュラム委員会委員長 藤井俊治

昨年より日本歯科専門医機構、公益社団法人日本口腔インプラント学会の担当者とワーキンググループ会議を開催して両学会が同一基準で研修を受けられるように日本顎顔面インプラント学会で作成した研修カリキュラム手帳の修正を行っており、令和5年5月に3団体の承認が得られたところですが、今後は理事会の承認を得て、正式な発表となる予定です。

賛助会員制度促進委員会報告

賛助会員制度促進委員会委員長 高橋 哲

賛助会員制度促進委員会の委員長を任されている高橋です。本学会では本学会の活動の基盤の一つとして賛助会員制度を設け、顎顔面インプラント事業をご展開される各企業を中心にご入会いただいております。今年度1社が新たに加わり、11社となりました。デンタルインプラントのみならず関連した製品の開発、医療現場への供給等に直接携わる各企業からのご支援は、歯科医学の発展を通じた国民医療の充実や医薬品産業の発展における重要な役割を担うとともに、公益社団の学術団体である本学会の運営において必要不可欠な要素であると思っております。本学会では国民医療を目指したデンタルインプラントの普及のため、地道に賛助会員を増やそうと思っております。会員の皆様にも参加して下さる企業を紹介していただきますよう、よろしくお願い申し上げます。具体的に企業をお教えいただければ私が直接交渉させていただきます。下記のメールアドレスまでお願いします。

tetsu@dent.tohoku.ac.jp

広告のできる専門医推進委員会報告

広告のできる専門医推進委員会委員長 瀬戸院一

日本歯科専門認定機構、日本口腔インプラント学会、日本顎顔面インプラント学会の3団体で、昨年5月から本年5月までに計8回のWG会議が開催されました。広告のできる専門医推進委員会はその3団体で検討された内容に関して、広告可能なインプラント歯科専門医を取得するために日本顎顔面インプラント学会としてどのような対応が必要か検討を行っています。現在は研修カリキュラムのSBOsの検証、医科との連携を要する疾患を伴う患者の定義や補綴における難症例の分類がほぼ終了しています。広告可能なインプラント歯科専門医はインプラントの埋入のみならず補綴、メンテナンス、問題事例の対応も行えなければなりません。カリキュラムの受講生が研修する症例は補綴分野を含んだインプラント治療患者となることから習得症例に関しては単位制を導入する必要があります。このため単位表の検討も行われ、さらに今後は研修施設、准研修施設の要件について検討がなされる予定です。3団体で承認された資料は理事会に提出し、承認を得られた資料から順次公表していく予定です。

診療ガイドライン作成委員会報告

診療ガイドライン作成委員会委員長 管野貴浩

2018年より常置委員会の1つとして設置された本委員会委員長を仰せつかり、柳井智恵副委員長、福田雅幸先生、堀江伸行先生、立川敬子先生、小山重人先生の6名で任に当たらせていただいております。

2022年8月に、本学会として広範囲顎骨支持型装置治療を中心とした診療指針である、“顎骨再建とインプラントによる治療指針—広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル”をインプラントジャーナルと歯科専門書籍を展開するゼニス出版から上梓いたしました。今後は本治療指針を用いて、学会教育研修会や各種教育セミナー等で活用され、広範囲顎骨支持型装置治療の臨床や教育等での骨子として運用されるものと考えます。

本治療指針—広範囲顎骨支持型装置治療マニュアルが、広範囲顎骨欠損をきたす多くの患者さん方の治療において、われわれ歯科各専門医(口腔外科、歯周病、歯科麻酔、小児歯科、歯科放射線、補綴歯科、矯正歯科、インプラント歯科等)、医科各専門医(形成外科、耳鼻咽喉科頭頸部外科、リハビリテーション科等)、言語療法士等による多職種医療連携による臨床の場で活用されることを強く祈念する次第であります。今後さらなる広範囲顎骨支持型装置治療に関するエビデンス構築と診療報酬改定、また発刊後の皆様方からの種々のご意見等を集積して適時改訂を行い、将来的には診療ガイドライン作成を目標としております。

診療マニュアル作成委員会報告

診療マニュアル作成委員会委員長 矢郷 香

診療マニュアル作成委員会は、現在、矢郷が委員長を仰せつかり、副委員長は木津康博先生、編集委員は河奈裕正先生、藤井俊治先生、丸川恵理子先生で任に当たっています。

広告可能な5つの専門医（口腔外科、歯科麻酔、小児歯科、歯周病、歯科放射線）の他に新たに「インプラント歯科専門医（仮称）」が日本歯科専門医機構で認証される予定となり、日本歯科専門医機構仲介の下、日本顎顔面インプラント学会と日本口腔インプラント学会でワーキング会議が行われています。本委員会では、インプラント歯科専門医取得のためだけではなく、これからインプラント治療を開始する先生方のインプラント研修のために役立つようなマニュアル本を作成する予定です。本は、クインテッセンス出版株式会社から出版することになっていて、内容は本学会の研修カリキュラム手帳に沿ったものにするつもりです。

日本歯科専門医機構とのワーキング会議では、本学会の研修カリキュラム手帳を基に、本学会矢島安朝常任理事、藤井俊治常任理事が主体となり作成されたインプラント歯科専門医の教育研修カリキュラムに関しての話し合いが行われ、何回ものワーキング会議を経て日本歯科専門医機構の承認が得られました。執筆をご依頼した先生方には原稿の締め切りを昨年9月とし、早々に原稿をいただいております。しかし、日本歯科専門医機構とのワーキング会議で教育研修カリキュラムに関して様々な指摘や修正があり、なかなか編集会議が開催することができませんでした。やっと今年4月に一般目標（GIO）、到達・行動目標（SBOs）が確定しましたので、5月中旬に編集会議をいたしました。ご心配をおかけし報告が遅れまして誠に申し訳ございませんでした。SBOsの変更に伴い原稿を修正、加筆していただく必要がある項目がございますが、執筆者の先生方にはご協力のほどよろしくお願いいたします。

今年12月2日（土）、3日（日）に開催される第27回日本顎顔面インプラント学会総会・学術大会までにマニュアル本完成・刊行を目指して活動を行います。

インプラント歯科専門医取得のためには、新たな専門医試験に合格する必要があります。インプラント歯科専門医取得のためまた各施設のインプラント治療の研修のために参考となり必携すべき本になるようにしたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

感染症対策委員会報告

感染症対策委員会委員長 瀬戸 皖一

COVID-19が日本を襲ったのは2020年2月、その頃嶋田淳理事長を初め日本顎顔面インプラント学会の主要メンバーがインドのバンガロール市においてSASOMI設立総会に出席していたところでした。急ぎ帰国して本委員会の設立を図っていただきました。とりあえず歯科医療施設から感染を上げないための8つの提言を手の届く範囲に発出しました。WHOのパンデミック宣言の2日前の3月10日でした。その後急いで本委員会を立ち上げ情報収集や対策について感染専門研究者を交えて会議を重ねました。NY Timesに最も危険な業種として指摘されるまでもなくCOVID-19は歯科医業を根底から脅かす重大な災厄なので、感染拡大防止策を国際歯科医療安全機構の中で学会横断的に進めることが肝要であることを確認し、ダイナミックな活動を開始しました。国際歯科医療安全機構は患者安全理念を確立するべく2018年に設立された学会横断的な組織であり、本学会はそのなかにあって当初より駆動体の役割を果たしておりました。

具体的にはSARS-COV-2ウィルスの受容体であるACE-2などが口腔粘膜、特に唾液腺管上皮に密集していることが阪井ら、槻木らによって世界に先駆けて明らかにされ、唾液が感染の交差点であることが世界に向けて発信されました。また瀬戸らにより口腔内の総微生物数を減少させることによりウィルスの感染価を4ケタも下げることが明らかになりました。これを受けて適切な洗口薬による洗口、うがいの励行キャンペーンを行いました。すなわち日本の歯科医療施設の隅々にまで浸透している米山の「口腔ケア」理念が自然に大規模感染に対する個人防疫体制につながったと言えます。

国際歯科医療安全機構では学術大会を年2回（6月熊本、12月新潟）開催し、そのほか緊急セミナーを3回開き、延べ参加者は1,800名にも達しました。高橋 哲本学会感染対策副委員長が2021年11月23日東北大学で開催した第4回学術大会にはインドから多数のSASOMI会員が参加し、この時にはインド側からCOVID-19との関連が疑われるムコール症の紹介があり、大きな反響を呼びました。

その一方で口腔内科学会から里村、村岡による高性能モバイルPCR検査キットの開発に成功し、小規模診療所でも簡単に誰でも操作できるようになりましたが未だ市販はされていません。また東北大高橋ら、阪大古郷らの尽力でサーキュレーターによる空間衛生管理システムが開発され実用に供しています。本年に入ってから感染対策プロジェクトは精力的に続けられ、講演依頼は歯科関係のみならず、介護福祉施設、高齢者施設などからも届き、これらに対しても精力的に対応しています。

最近では日本学術会議大規模感染症予防制圧分科会から講演依頼があり、去る4月4日瀬戸、阪井、瀬戸、米山のメンバーで講演いたしました。驚くほど大きな反響があり、終了時間が1時間以上も延びた程でした。その後1か月

もかけて日本学術会議事務局にて編集していただき、この度一般に公開されました。いつでもどなたでも <https://www.scj.go.jp/ja/member/iinkai/2bu/giji-2kansensyoushou.html> により何回でも視聴できますので、本学会会員各位への拡散を期待しております。

COVID-19は5類に移行し、国民の誰もこのまま収束することを期待していると思いますが、最近になって尾身茂先生から第9波が始まった可能性が示唆されました。今こそ国民一人ひとりが口からの感染を防御し、感染拡大予防策の励行を生活習慣とすれば、多くのウイルス感染を予防できることを国民全体、さらに国際的にも広めて参りたいと願う次第です。何卒学会、職域などを越えて各方面への拡散にご協力いただきますようお願いいたします。

会員データベース管理委員会報告

会員データベース管理委員会委員長 藤井俊治

今回新たに立ち上げられた委員会です。本学会が開催する学術大会や教育研修会は会員にとって専門医、指導医の申請・更新に必要な活動履歴です。また運営審議員の選任に関しても重要な活動履歴となります。業者に一任する学会も散見されますが、本学会では今年度から委員会を立ち上げて管理することになりました。立ち上げたばかりの委員会なので、ご不便をおかけすると思いますが、よろしく願いいたします。

共同研究委員会報告

共同研究委員会委員長 菅野貴浩

日本顎顔面補綴学会との共同研究

本年2023年より常置委員会の1つとして新設された共同研究委員会委員長を仰せつかり、現在副委員長小山重人先生、高橋 哲先生、山下佳雄先生、柳井智恵先生、堀江伸行先生の6名で任に当たらせていただいております。

2022年8月に、本学会として広範囲顎骨支持型装置治療を中心とした診療指針である、“顎骨再建とインプラントによる治療指針—広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル”をインプラントジャーナルと歯科専門書籍を展開するゼニス出版から上梓がなされました。周知のとおり、本邦では2012年の歯科診療報酬改訂で、広範囲に及ぶ顎骨欠損患者に対する歯科インプラント治療が「広範囲顎骨支持型装置」および「広範囲顎骨支持型補綴」として保険導入されました。保険改定後の現在の保険適用条件としては「腫瘍、顎骨髄炎、外傷などにより、広範囲（連続した4歯相当以上）な顎骨欠損もしくは歯槽骨欠損症例、またはこれらが骨移植などにより再建された症例で」「外胚葉異形成症などまたは唇顎口蓋裂などの先天性疾患で

あり、顎堤形成不全であること」「外胚葉性異形成症などの先天性疾患であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損であること」「6歯以上の先天性部分無歯症又は前歯及び小臼歯の永久歯のうち3歯以上の萌出不全（埋伏歯開窓術を必要とするものに限る）であり、連続した3分の1顎程度以上の多数歯欠損（歯科矯正後の状態を含む）であること」となっています。しかし、対象となる顎骨欠損患者さんの特殊性もあり、現状では確固たる診療ガイドラインがないまま診断・治療が行われ、各診療施設によりその適用基準すらあいまいで、標準治療は確立していないのが現状です。また、広範囲顎骨支持型装置ではインプラント体のディスプレイング、インプラント周囲炎や周囲粘膜増殖などの併発症が、通常のインプラント症例よりも比較的高頻度で、重症化しやすいとの報告がなされています。これらの発生率やリスクファクター（再建の有無、部位、軟組織移植の有無等）の検出に関しても急務ではありますが、個々の施設では症例数の積み上げが難しいこと、さらには施設ごとに評価基準が異なることなどから、これらのリスクファクターは現在までに明らかになっていない状況です。

そこで、方向性を同じくする（一社）日本顎顔面補綴学会と連携して共同研究を実施することで、共通の診断・評価および治療プロトコルを用いた多機関共同研究を実施し、継続的にデータ収集および広範囲顎骨支持型装置の残存率、成功率に関する長期予後やその他の関連併発症の発生率を明らかとし、さらに広範囲顎骨支持型補綴装置の口腔機能への効果を評価することといたしました。本学会および（一社）日本顎顔面補綴学会とのこれらの包括的な多施設共同研究を実施することにより、今後広範囲顎骨支持型装置治療の標準治療化を確立し、エビデンスに基づいた診療ガイドラインを確立作成することを目的としております。本学会研修施設および準研修施設を対象として実施する方針で鋭意準備をすすめておりますので、何卒ご理解をいただき、積極的に本研究に参加をしてくださいましたら幸いです。

《 総会・学術大会報告 》

第26回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会

大会長 近津大地 / 実行委員長 長谷川温 / 準備委員長 濱田勇人 / プログラム委員長 池畑直樹

2022年(令和4年)11月26日(土)・27日(日)と2日間にわたり、第26回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を東京医科大学病院で開催させていただきました。新型コロナウイルス感染症の状況が日替わりで変化する中で、感染予防の観点からハイブリッド開催となりましたが、現地参集254名、登録総数518名と多くの皆さまにご参加いただき、盛会裏に終えることができました。これもひとえに本学会会員の皆様方のご支援・ご協力の賜物と厚く御礼申し上げます。



今回の大会テーマは「磨励自彊 これからのインプラント 卒後教育を再考する」とし、インプラントの卒後教育に焦点をあてた企画となりました。学術大会の内容につきましては、特別講演を森中慎也先生(日本大学芸術学部放送学科教授、元札幌テレビ放送アナウンサー)に「今、「リアル」で話すということ」といった内容でお話いただきました。招聘講演はShahram Ghanaati先生(Frankfurt Orofacial Regenerative Medicine教授)に「New bone augmentation method using regenerative medicine」といったタイトルで最新の骨造成法についてご講演いただきました。また、教育講演は高柳 広先生(東京大学大学院医学研究科病因・病理学専攻免疫学講座教授)に「骨免疫学の最前線～インプラント治療にどう活かすか～」についてご講演いただきました。シンポジウムにつきましては、「キャダバーを用いたサージカルトレーニングについて—医療安全を見据えたインプラント卒後教育にどのように活かすべきか?—」、「口腔腫瘍外科医から考える広範囲顎骨支持型インプラントについて」、「留学のすすめ—後悔しない人生のために!—」、「広告可能な専門医に向けた新たな目標、方略、評価」を、また、ワークショップには「インプラン

ト治療に必要な骨造成(骨増生)アップデート」、さらには、Asia Pacific Implant Society (APIS) Winter Meeting in Tokyoを併催とした多彩な内容となりました。一般演題数も口演発表41題、Webによるポスター発表39題の計80題と、全体と通して充実したプログラムになったかと思えます。

本学術大会では登録総数の約半数が現地参集され、会場はもちろんのこと、展示ブースにも多くの参加者で溢れ、とても賑やかな雰囲気の中、皆様の笑顔で終えることができました。オンラインの良さもありますが、やはり対面参集(リアル)の良さを改めて痛感しました。最後になりますが、このような学術大会開催に対し、ご支援をいただきました学会会員の皆様方ならびに学会事務局の関係者の皆様方に深く感謝申し上げます。



写真 今回で最終のスーチャーコンテスト終了後



写真 医局員全員で記念撮影



写真 招聘講演演者のShahram Ghanaati先生、座長の古賀陽子教授、Robert Sader先生らと

《 総会・学術大会のご案内 》

第27回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会

大会長 矢郷 香

2023年12月2日(土)、3日(日)に、第27回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を開催いたします。昨年11月に国際医療福祉大学三田病院で主管することが決定した時には、まだ、新型コロナウイルス感染症の位置づけは「新型インフルエンザ等感染症(いわゆる2類相当)」であったために国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスでの会場開催およびWebによるリアルタイムならびにオンデマンド配信方式としました。今年5月8日からは「5類感染症」になり規制も緩やかになりましたので会場主体で多くの方に参集していただけるかと思えます。

テーマは、「インプラント関連手術を多面的、多角的に再考する」としました。インプラントは歯の欠損部に対して確立した治療法ですが、インプラントの表面構造も変遷し、種々の骨補填材(人工骨)も開発されています。顎骨高度吸収症例に対しても様々な骨造成があるので、インプラント関連材料、手術方法について再考し議論を深めたいと考えました。

特別講演は、医師・作家の元国際医療福祉大学特任教授の和田秀樹先生に、「70歳が老化の分かれ道」と題してご講演いただきます。日本は超高齢社会ですが、健康寿命は平均寿命より約10歳短いです。健康で長生きするためのヒントをお教えいただけるものと思えます。教育講演は、東京歯科大学歯科理工学講座 服部雅之教授に「歯科理工学から見たインプラント関連材料の変遷と今後の展望」についてご講演賜ります。シンポジウムは、「上顎無歯顎のインプラント治療の展望」、「骨造成—失敗しないための工夫とリカバリー」、「全身的风险ファクターとなる患者のインプラント治療」、「インプラント周囲炎の対応とインプラント撤去基準」、「チームアプローチで行う広範囲顎骨支持型装置」を企画いたしましたので、シンポジストと会場の皆様と共に活発な議論をしたいと思います。また、意見交換ができ学会の楽しみでもある会員懇親会も開催できるように準備をいたします。本学会ではAPIS Winter Meeting 2023 in TOKYOも併催いたします。

会場は、東京の中心港区です。三田には高山紀斎が高山歯科医学院を設立した歯科医学教育発祥の地跡があります。グルメの町でもあり、赤坂、青山、六本木、西麻布にはミシュランの星を獲得している多数のレストランがあります。近隣には東京タワーや国立新美術館の他、徳川将軍家の廟所増上寺、忠臣蔵ゆかりの地である赤坂氷川神社がありますので、歴史散歩めぐりもできます。東京タワーと東京スカイツリーが一度に見える六本木ヒルズ屋外展望台からの夜景は圧巻です。

現地参集を主体としますが、ハイブリッド開催でどこでも参加、何回でも聴講できるのがメリットかと思えますので多

くの方のご参加をお待ちしております。2023年12月にはコロナが終息していることを願い、皆様と会場でお会いできるのを楽しみにしております。

**インプラント関連手術を
多面的・多角的に再考する**

第27回公益社団法人
日本顎顔面インプラント学会
総会・学術大会

開催日 2023年12月2日(土)～3日(日)

会場 国際医療福祉大学 東京赤坂キャンパス
開催形式 現地開催を主体としたハイブリッド開催

大会長 矢郷 香 国際医療福祉大学 三田病院歯科口腔外科 教授
実行委員長: 石崎 志 国際医療福祉大学 成田病院歯科口腔外科 教授
準備委員長: 川本 義明 国際医療福祉大学 三田病院歯科口腔外科 副部長
プログラム委員長: 小飼 英紀 国際医療福祉大学 臨床医学研究センター 准教授

特別講演
「70歳が老化の分かれ道」
和田 秀樹 特任教授 国際医療福祉大学

教育講演
「歯科理工学から見たインプラント関連材料の変遷と今後の展望」
服部 雅之 教授 東京歯科大学 歯科理工学講座

招請講演
シンポジウム
1. 骨造成「失敗しないための工夫とリカバリー」
2. 上顎無歯顎のインプラント治療の展望
3. チームアプローチで行う広範囲顎骨支持型装置
4. インプラント周囲炎の対応とインプラント撤去基準
5. 全身的风险ファクターとなる患者のインプラント治療

一般口演・ポスター / 市民公開講座

演題登録期間 2023年5月1日(月)～7月18日(火)
事前参加登録 2023年5月1日(月)～11月10日(金)
一般参加登録 2023年11月11日(土)～2024年1月10日(水)

●2023年5月1日から演題募集(一般口演・ポスター)、参加登録を開始いたしました。

※演題登録締め切りは8月1日(火)に延長しました。

※事前参加登録締め切りは11月10日(金)です。学会ホームページ、大会ホームページから申し込みをお願いいたします。

第27回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会
<https://jamfi27.gakujuysusha.jp/>



《 総会・学術大会のご案内 》

第28回 日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会

大会長 城戸寛史

2024年11月30日～12月1日の日程で、福岡国際会議場にて、第28回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を開催いたします。この学会は、口腔外科医が中心となって、良質なインプラント治療を提供するための情報交換の場であり、学びの機会となっています。

最近のデジタルデンティストリーの進歩は、歯科医療の全般の分野で革新的な進歩をもたらしています。インプラント治療は特にデジタル技術との親和性が高いと考えられます。デジタルテクノロジーの進歩により、インプラント治療の精度、効率性、予測性が向上し、患者にとってより快適な治療体験が実現されています。特に、3Dスキャニング技術やCAD/CAM技術の活用は術前検査から手術のプランニング、そして上部構造の製作までシームレスなデジタル化を実現しています。このようなデジタル技術はインプラント治療を前提とした顎顔面領域の再建手術にも応用が可能になりつつあります。

学術大会のテーマは未定ですが、このような環境を踏まえて顎顔面インプラント治療のトップダウンリートメントに関する話題を取り上げたいと考えます。

口腔外科医がインプラントの補綴処置について学ぶことは、患者の口腔健康と生活の質向上に大きな影響を与えます。学術大会では、これまで取り上げられてきたインプラント治療関連の外科処置だけでなく、上部構造に関するエキスパートにもご登壇いただき、講演やシンポジウムを通じて有意義なディスカッションの機会としたいと考えます。さらに、ワークショップやデモンストレーションセッションでは、実際の手技や手順を学ぶ機会も提供したいと考えます。これにより、参加者の方々はインプラント治療全般のスキルや知識の向上に役立てていただきたいと思います。

手前味噌で恐縮ですが、福岡市は学術大会を開催するにふさわしい魅力的な町です。福岡の魅力は多岐にわたり、古き良き伝統と最先端の技術が調和しています。12月の博多は、冬の味覚が味わえるシーズンで、伝統的な屋台やレストランで博多ラーメンやもつ鍋、水炊きなどの地元料理を楽しむことができます。さらに、古い町並みや歴史的な寺院が点在する東福岡エリアでは、静かな時間を過ごすこともできます。美しい自然環境も魅力の一つで、お時間があれば、海や山がありアクティブなアウトドア活動も楽しめます。福岡市はまた、交通の便も良く、国内外からの参加者にとってアクセスが容易です。

第28回公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会は、会員の方々にとって、インプラントの外科領域と補綴治療に関する学びの場となるだけでなく、福岡市の魅力を堪能しながら交流やネットワーキングの機会も提供します。具体的な企画はこれからですが、充実した学

術大会を目指して教室一丸となって準備いたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



写真 第28回 総会・学術大会会場の福岡国際会議場
福岡空港、博多駅からのアクセスは良好です。



写真 博多湾からの夜景、福岡タワーとPayPayドーム



写真 お馴染みの博多の屋台街
福岡のグルメもお楽しみください。

《 2023年以降のインプラント関連学会案内 》

学会開催予定一覧

2023年7月～2025年1月

- 2023年7月29日～30日
 (公社)日本口腔外科学会 第1回若手口腔外科医交流会
 (大阪私学会館)
- 2023年8月27日
 第50回日本顎顔面インプラント学会教育研修会
 (web開催/島根大学)
- 2023年9月8日～9日
 第31回硬組織再生生物学会学術大会・総会
 (新潟県歯科医師会館)
- 2023年9月15日～17日
 第53回日本口腔インプラント学会学術大会
 (札幌コンベンションセンター)
- 2023年9月22日～24日
 第43回日本歯科薬物療法学会・第36回日本口腔診断学会・第33回日本口腔内科学会・第32回日本口腔感染症学会 4学会合同学術大会
 (栃木県総合文化センター)
- 2023年9月28日～30日
 30th EAO annual scientific meeting, European Association for Osseointegration
 (Berlinc, Germany)
- 2023年11月10日～12日
 第68回(公社)日本口腔外科学会 総会・学術大会
 (大阪国際会議場)
- 2023年12月2日～3日
 第27回(公社)日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、APIS Winter Meeting 2023 in TOKYO
 (国際医療福祉大学)
- 2024年1月25日～27日
 第42回日本口腔腫瘍学会 総会・学術大会
 (北海道立道民活動センター)
- 2024年3月8日～10日
 第33回日本有病者歯科医療学会 総会・学術大会
 (新潟グランドホテル)
- 2024年3月29日～31日
 Asia Pacific Implant Society (APIS) in 2024
 (杭州(未定)China)
- 2024年9月17日～20日
 The 27th Congress of the European Association for Cranio Maxillo Facial Surgery (EACMFS 2024)
 (Roma,Italy)
- 2024年10月24日～26日
 31st EAO annual scientific meeting, European Association for Osseointegration
 (Milan,Italy)
- 2024年11月1日～3日
 第54回日本口腔インプラント学会 学術大会
 (京都国際会館)
- 2024年11月22日～24日
 第69回(公社)日本口腔外科学会 総会・学術大会
 (パシフィコ横浜)
- 2024年11月30日～12月1日
 第28回(公社)日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会、APIS Winter Meeting 2024
 (福岡国際会議場)
- 2025年1月17日～19日
 Asia Pacific Implant Society (APIS) in 2025
 (Bangalore, India)

《 研修施設紹介① 》 今回より研修施設紹介の企画をいたしました。順次3施設紹介してゆきたいと思っております。

明海大学歯学部附属明海大学病院 口腔外科第1

センター長 嶋田 淳 (明海大学歯学部附属明海大学病院 教授)

日本顎顔面インプラント学会の指定研修施設、明海大学歯学部附属明海大学病院口腔外科第1は、明海大学歯学部附属明海大学病院口腔インプラントセンターを主体的に運営する口腔外科第1科所属医員から構成されています。指導医は嶋田、竹島、田村の3名が在籍しています。専門医は嶋田1名です。

同口腔インプラントセンターは1998年に病院内に始めて設けられた診療センターで、センター長に嶋田が指名され現在に至っています。同センターは病院の一階に、口腔外科の外来医局と準備室を挟んで、通路で連結された図式で設置されています。当科でのインプラント治療の歴史は1986年に始まりますが、当初は腸骨移植で再建された顎骨へのインプラント埋入とボーンアンカーブリッジにより機能回復を行う症例がほとんどでしたが、1990年代に入り近在歯科医院からの紹介による通常の欠損補綴症例が増加し、またサイナスリフトなどの適応範囲拡大のための症例が増えてきたことから、急遽インプラントセンターを設けることになったと記憶しています。学部長から命を受け、小児歯科診療室であった場所をインプラント治療ができる部屋に改装するため図面を引き、業者と折衝してエアクリーナーなどの器材を取り付け、また患者用ロッカーなどの設置を、少ない予算で行いました。治療用ユニットは小児歯科の中古です。インプラント関連手術はインプラントセンターで行いますが、補綴治療は口腔外科外来診療室で行っています。口腔外科主体のインプラント研修施設ですが、最終補綴まで口腔外科で全て行っているのが特徴です。昨年度のインプラント埋入手術実績は141症例、217本でした。ノーベルバイオケア製品が約80%、ストローマン製品が約20%です。SimPlantシミュレーションソフトウェアが7基使用され、DTXソフトウェアも数台運用されています。

また、本口腔インプラントセンターは、明海大学-朝日大学の生涯研修事業の内、インプラントに関連するものを運用していることも特徴です。ベーシックインプラント10日間コースとインプラントアドバンス5日間コースがあり、若手の先生はこれらに参加するか補助をすることにより、インプラントについての知識と基本的手技を学習します。インプラントの実地研修は、埋伏智歯抜歯が独立で実施可能になる入局後2~3年で、見学、診療補助から開始し、数年で埋入や骨造成が実施可能になります。インプラント治療を行えることを目的として口腔外科に入局する医員も多いと思えます。今後は日本顎顔面インプラント学会の専門医取得を目指す医員が増えることを期待しています。

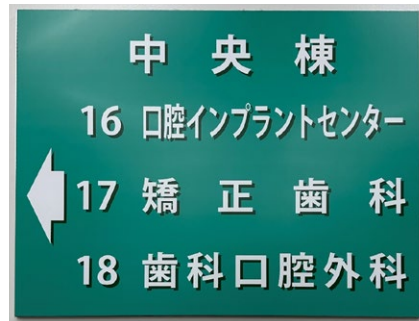


写真1 インプラントセンターは口腔外科診療室に連結しています



写真2 インプラントセンター入り口



写真3 インプラントセンター診療室

《 研修施設紹介② 》

国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科

矢郷 香（国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 教授）

川本義明（国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科 講師）

2005年地域の基幹病院として機能していた東京専売病院を承継して国際医療福祉大学三田病院は開設されました。長く地域医療を担ってきた伝統と大学の特色が融合した病院です。現在、東京都がん診療連携拠点病院また東京都指定二次救急医療機関として認定されています。国際医療福祉大学・高邦会グループは全国で約60施設あります。三田病院は東京の中心港区にあり赤坂、青山、六本木、西麻布に近く、最寄りの駅は都営大江戸線の赤羽橋駅で、駅から徒歩約3分です。病院からは東京タワーが見えます。病床総数は一般病床291床です。

【歯科口腔外科】

現在、口腔外科疾患を中心に診療を行っていますが、総合病院としての特色上、有病者および入院患者の歯科治療、また悪性腫瘍等の手術、放射線・化学療法の周術期管理など治療内容は多岐にわたっています。日本口腔外科学会、日本顎顔面インプラント学会等の研修施設に認定されています。

インプラント治療は、2007年に慶應義塾大学医学部歯科・口腔外科学教室から三田病院に朝波惣一郎前教授（本学会監事）が赴任されてから、通常のインプラント埋入手術の他、サイナスリフト等の種々の骨造成、インプラントを応用した顎顔面補綴等を行っています。広範囲顎骨支持型装置埋入手術および広範囲顎骨支持型補綴に関しては、2012年保険導入されたと同時に治療を開始しています。また、本院には頭頸部腫瘍センターがあり、同センターから口腔がん患者の術後の口腔機能を回復するためにインプラント治療の依頼があります。現在、スタッフは矢郷 香（部長・教授）、川本義明（副部長・講師）、佐藤豊彦（講師）、阿久津真奈の歯科医師4名です。全員が本学会会員で、手術は矢郷、佐藤で、補綴は川本を中心に外科処置から上部構造の補綴まで行っています。衛生士は4名で、半個室の外来歯科診療台は4台あります。インプラント手術および関連手術はオペ室で行い、衛生士もオペ室に入り器械出し・介助をしています。無菌顎や広範囲顎骨欠損に対しては、All-on-4やサイゴマインプラントも導入し、近年、より安全で確実な手術を行うためにガイドドサージェリーを施行しています。

歯科医師4名ですが、入院全身麻酔下手術は年間約140件、手術室での手術は局所麻酔手術も併せ年間230件を超えます。コロナ禍でインプラント手術も一時減少しましたが、年間約100本以上埋入しています。外来手術もあるので、皆忙しく汗水垂らして働いています。手術に関しては多様化するニーズに応えるため、リラックスして手術を終えることができるように入院下、静脈鎮静および全身麻酔下での手術も行っています。また、月1回（第3水曜日午後）

に口腔顔面痛外来を開設し、米国口腔顔面痛学会認定医、日本頭痛学会専門医で口腔顔面痛の第一人者である井川雅子先生に診察していただいています。全国からインプラントに問題がないのに疼痛を訴える紹介患者にも対応しています（海外から来院した患者もいました）。

2023年12月2日（土）～3日（日）に、東京港区赤坂の国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスで第27回日本顎顔面インプラント学会 総会・学術大会を主催いたします。ハイブリッド開催ですが新型コロナウイルス感染症も5類感染症に移行しましたので、現地開催主体で行います。多くの方のご参加と演題登録をお待ちしております。



写真 国際医療福祉大学三田病院



写真 国際医療福祉大学三田病院歯科口腔外科スタッフ

《 研修施設紹介③ 》

福岡歯科大学 口腔インプラントセンター

城戸寛史（福岡歯科大学咬合修復学講座口腔インプラント学分野 教授）

福岡歯科大学口腔インプラントセンターは、2013年12月1日に日本顎顔面インプラント学会研修施設として認定されました。福岡歯科大学口腔インプラントセンターは、主として福岡歯科大学口腔インプラント学分野の構成員によって運営されており、現在の常勤の構成員は、教授1名、准教授1名、講師2名、助教2名、大学院卒後助教1名、医員5名、大学院生4名、専攻生2名の18名です。これに附属病院所属の5名の研修医が診療スタッフとして活動しています。これらの構成員には顎顔面インプラント学会の認定指導医が1名、認定専門医が1名含まれています。また、補綴科や口腔外科の歯科医師もインプラント治療を行うことができ、複数の診療科が連携してインプラント治療にあたることができます。口腔インプラントセンターとして口腔インプラントに関する高度な診療、教育、研究を専門に行っています。当分野は、最新の治療技術と研究成果を取り入れながら、学生や専門医師の育成に力を注いでいます。

福岡歯科大学口腔インプラントセンターでは、福岡歯科大学医科歯科総合病院の施設を利用してインプラント治療を行っています。これらの施設には、全身麻酔に対応できる中央手術室、静脈内鎮静に対応できる歯科手術室、正気鎮静に対応できるインプラント科の手術室、二次手術等の処置を行える個室の4つの処置室が含まれます。また、画像診断は放射線科が担当し、デンタルエックス線写真、パノラマエックス線写真、医科用CT、コンビームCTおよびMRIが利用できます。患者は、必要または希望に応じて入院での治療が可能で、インプラント治療のための入院プログラムが準備されています。器具の洗浄や滅菌は滅菌機材部で行われ、器具は高度に管理されています。

福岡歯科大学口腔インプラントセンターでは、インプラント治療におけるデジタル技術の導入を積極的に進めており、CTデータを利用した術前のプランニング、ガイドサージェリー、ナビゲーションシステムの活用、光学印象、CAD/CAMによる上部構造の製作を行っており、学生や研修医の教育に利用しています。これらのデジタル技術の導入は、経験の浅いドクターのトレーニングに有効であることがわかっており、経験に関わらず安全なインプラント治療が達成できます。

研究面では、新たな治療法や材料の開発にも積極的に取り組んでいます。ジルコニアインプラントの開発やアパットメントと軟組織の接着など、インプラントの生物学的統合や周囲組織の反応に関して基礎研究から臨床応用まで幅広いテーマに取り組んでいます。

当分野のカリキュラムは、インプラント手術の理論的な知識や臨床的な技術に焦点を当てています。学生は、解剖学、生理学、顎顔面病理学、インプラント手術の計画・設

計、インプラントの埋入手術、および補綴治療などの分野で幅広い知識を学びます。

福岡歯科大学口腔インプラントセンターでは、教育と研究を通じて優れた歯科医師や研究者の育成を目指しています。本施設では実際の臨床現場での経験を積みながら、先端的な治療技術や研究成果に触れることができます。これらの活動を通じて口腔医療の進歩に貢献する専門家の育成に力を注いでいます。



写真 福岡歯科大学 口腔インプラントセンター



写真 手術室光景

《 会員情報 》

会員数は2023年5月末現在1,450名
(名誉会員11名含む)

賛助会員数は2023年5末日現在で11社です。
詳細は以下に示します。

「賛助会員」一覧 (2023年5末日現在)

AQB・ABIインプラント株式会社
オカダ医材株式会社
オリンパステルモ バイオマテリアル株式会社
クインテッセンス出版株式会社
ストロマン・ジャパン株式会社
株式会社デンタリード
デンツプライシロナ株式会社
日本スライカー株式会社
ノーベル・バイオケア・ジャパン株式会社
株式会社プラトンジャパン
株式会社モリタ

《 事務局からのお願い 》

＜年会費納入に関して＞

年会費は自動振替ご登録の方を除き、毎年下記のサイクルで請求書をお送りしています。

第1回目：1月下旬～2月下旬

第2回目：5月中旬～7月上旬

4月の新年度以降でないという方もいらっしゃるため、この時期にお送りしています。1回目で納入いただいていない方のみに「再送」というかたちで送付。

第3回目：8月

1、2回目で納入いただいていない方のみに「再々送」という形で送付しています。

※コンビニ決済もできるようになりました。ただ、コンビニ決済には納付期限がありますので、請求書が届いてから必ず期限内に納付ください。また、郵便振替もしくはコンビニ決済となりますので、重複してお支払いにならないようご注意ください。

※できるだけ自動振替の登録をお願いいたします。

ご希望の場合は事務局へメール info@jamfi.net までご連絡ください。

(件名を「自動振替」としてください。)

※このところ、勤務先や転居先の登録がされておらず「案内が届いていない」という方も見受けられますので転勤や

転居された場合、必ず変更申請を提出ください。

(ホームページより用紙をダウンロードするか、メールでお送りください。あるいは、事務局へFAXください。)

※長期未納は会費規定に基づき退会扱いとなります。会費規定に下記付則がありますので、ご注意ください。

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会 会費規程 (付則)

会費納入期限から1年を経過した時点で会費未納の場合は、事務局からの文書による通知を行う。その後1年間会費が納入されない場合には学会雑誌の発送を停止する。さらに通算3年納入が見られない場合は、定款第7条2項(3)に基づいて退会とする。

なお、再入会を希望する退会者に対しては、過去の未納分の決済を原則とし、これを理事会で審議後再入会を承認する。

この規程は、平成28年12月4日から施行する。

※退会される場合は電話では承りません。台帳に残すためにメールもしくはFAXにてその旨ご連絡ください。特に様式はございません。

＜メールアドレス登録のお願い＞

当会では、メールニュースとしてタイムリーな情報やご案内を差しあげています。

年に数回発行していますが、現在受信されていない方は是非ご登録いただきますようお願いいたします。登録先E-mail：info@jamfi.net

(件名を「メールアドレス登録」としてください。)

＜事務局の業務についてのお願い＞

当会事務局は少人数で運営されています。また、感染防止対策や夕方以降のWeb会議などのため在宅勤務や事務所滞在時間の短縮を取り入れております。不在でお電話いただいても対応できないなど、ご迷惑をおかけしますがご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。

お問い合わせにつきましても電話ではお受けできません。

特に、専門医関連の問い合わせを電話でいただくことがあります。正確な回答を差し上げるため、e-mailでおこなっておりますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。

《 教育研修会のご案内 》

日本顎顔面インプラント学会 教育研修会の予定をお知らせします。みなさまの参加をお待ちしております。
※専門医、指導医申請・更新申請には本学会が主催する教育研修会の修了証が必要です。

《第50回日本顎顔面インプラント学会 教育研修会》

委員長 矢島安朝

実行委員長 管野貴浩

会期：2023年8月27日(日) 9:00～16:00

形式：Web開催+オンデマンド

対象：歯科医師、医師、歯科衛生士、歯科技工士など
(会員、非会員問いません)

参加費：12,000円(歯科医師・医師以外の学生、留学生は無料)

担当：島根大学医学部歯科口腔外科学講座

申込：学会ホームページ(Google Form)よりお申し込みください。

<https://www.jamfi.net/>

※お申し込み完了すると自動返信メールが登録メールアドレスに送信されますが、「迷惑フォルダ」に振り分けられることが多いのでご注意ください。

お申し込みが完了したかわからない場合は
info@jamfi.net へご連絡ください。

テーマ「顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の現状を学ぶ」

*公益社団法人日本顎顔面インプラント学会編集「顎骨再建とインプラントによる治療指針ー広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル」に準拠した内容による。

●8:50～9:00 理事長 挨拶

日本顎顔面インプラント学会 理事長 嶋田 淳

●9:00～9:50 講演1

座長：山下佳雄(佐賀大学医学部 歯科口腔外科学講座)

演者：高橋 哲(一般財団法人脳神経疾患研究所附属南東北病院口腔外科)

「広範囲顎骨支持型装置の診査診断・治療計画及口唇裂・口蓋裂患者への応用」

●9:55～10:45 講演2

座長：河奈裕正(神奈川歯科大学 歯科インプラント学講座 顎・口腔インプラント学分野)

演者：小山重人(東北大学病院顎顔面口腔再建治療部 歯科インプラントセンター)

「広範囲顎骨支持型装置・補綴治療と診療ガイドライン設定に向けた口腔機能評価」

●10:50～11:40 講演3

座長：柳井智恵(日本歯科大学附属病院 インプラント診療科)

演者：石田勝大(東京慈恵会医科大学 形成外科学講座)

「広範囲顎骨欠損に対する再建の現状と今後の展開」

●11:45～12:35 講演4

(スポンサード 帝人メディカル株式会社 ランチョンセミナー)

座長：管野貴浩(島根大学医学部 歯科口腔外科学講座)

演者：上田倫弘(独立行政法人 国立病院機構 / 北海道がんセンター 口腔腫瘍外科)

「顎口腔腫瘍・口腔癌の切除と再建～広範囲顎骨支持型装置治療を考慮して」

●12:35～13:05 休憩時間

●13:05～13:55 講演5

座長：矢郷 香(国際医療福祉大学三田病院 歯科口腔外科)

演者：奥井達雄(島根大学医学部 歯科口腔外科学講座)

「薬剤関連顎骨壊死・骨髄炎/顎顔面外傷への広範囲顎骨支持型装置治療」

●14:00～14:50 講演6

座長：藤井俊治(日本大学歯学部 口腔外科学第1講座)

演者：丸川恵理子(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科口腔再生再建学分野)

「広範囲顎骨支持型装置治療への歯槽骨再生治療とインプラント体周囲管理」

●14:55～15:45 講演7

座長：福田雅幸(秋田大学医学部 歯科口腔外科)

演者：助川信太郎(香川大学 歯科口腔外科学講座)

「歯科インプラント治療における現在のエビデンス・AIの応用」

●15:45 教育研修委員会 委員長 挨拶

日本顎顔面インプラント学会 教育研修委員会

委員長 矢島安朝

《 顎骨再建とインプラントによる治療指針発刊のご案内 》

公益社団法人日本顎顔面インプラント学会編集による「顎骨再建とインプラントによる治療指針ー 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル ー」が発刊されました。

本書の特徴は全編5章からなり、従来みられなかった顎骨再建方法について総論的に解説され、さらに再建顎骨に歯科インプラントを組み合わせた機能的再建、保険導入された広範囲顎骨支持型装置治療の治療方針について、豊富な臨床資料に基づいて解説されています。

顎骨再建とインプラントによる治療指針 ー 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル ー

第1章 顎骨再建とインプラントによる機能的再建 顎骨再建方法とインプラント治療

総説・解説 顎骨再建方法とインプラント治療

顎骨再建法の分類、口腔がん切除後欠損に対する再建法、インプラント同時埋入か二期的埋入か？

- 1 保険収載された「広範囲顎骨支持型装置埋入手術」と「広範囲顎骨支持型補綴」の経緯
付録 令和4年度診療報酬改定による広範囲顎骨支持型装置および補綴治療についての改定
- 2 広範囲顎骨支持型装置の適応 広範囲顎骨支持型装置の適応例と問題点
- 3 広範囲顎骨支持型装置の診察・検査と診断
- 4 治療計画の立案
- 5 顎骨再建手術と広範囲顎骨支持型装置(インプラント体)埋入手術の周術期管理
- 6 顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療における倫理規範：医療安全と医療倫理(総説・解説)

第2章 各論：広範囲顎骨支持型補綴

- 1 広範囲顎骨支持型補綴装置の選択
- 2 オーバーデンチャーのAttachmentsの選択と注意点
- 3 補綴的機能評価 咀嚼機能検査

第3章 各論：唇顎口蓋裂・先天奇形/先天多数歯欠損への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の適応

- 1 □唇裂・□蓋裂の包括治療

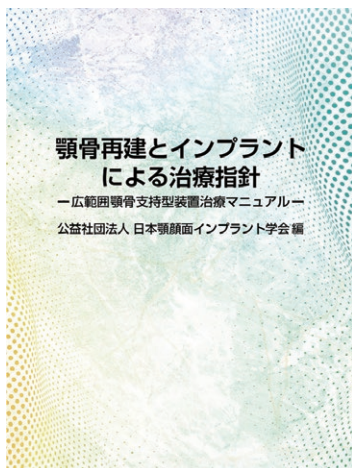
- 2 □唇裂・□蓋裂に伴う広範囲顎骨欠損患者への骨造成
- 3 顎裂部への広範囲顎骨支持型装置および補綴の応用による形態・機能回復とその長期予後
- 4 先天性多数歯欠損への広範囲顎骨支持型装置および補綴の適応
- 5 □唇裂・□蓋裂患者の顎裂部への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の注意点

第4章 各論：骨移植による顎骨再建症例への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療の適応

- 1 上顎欠損と下顎欠損の分類
- 2 血管柄付き骨移植による顎骨再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療
- 3 血管柄付き骨移植以外の硬性再建と広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)
- 4 骨吸収抑制薬を投与されている患者への広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)
- 5 機能的上顎再建
- 6 その他の疾患への適応：外傷、骨髄炎などへの広範囲顎骨支持型装置および補綴治療(インプラント治療)の適応について

第5章 広範囲顎骨支持型装置および補綴治療後に関連して発生する併発症とその管理

- 1 インプラント体周囲組織とインプラント上部構造のリコール・メンテナンス(機械的および生物学的不具合とその対応)
- 2 外科的・補綴的治療後の不具合とその対応



顎骨再建とインプラントによる治療指針 ー 広範囲顎骨支持型装置治療マニュアル ー

- 【仕様】 A4版 260ページ カラー
 【発売日】 2022年8月25日
 【価格】 本体価格 10,000円(税込み11,000円)
 【出版元】 (有)ゼニス出版

※会員特別価格：会員価格はおひとり1冊10,000円(税・送料込み)となります。

詳しくはホームページをご覧ください。
<https://www.jamfi.net/>

編集後記

診療ガイドラインは、クリニカルクエスチョン(CQ)を設定し、GRADEシステムなどのできる限り共通で透明性の高い手法を用いて作成されます。CQ設定の仕方にもよりますが、多くの顎口腔領域疾患ではスクリーニングした数千もの論文のうち確実性の高いエビデンスを有して組み入れ可能な論文はほんの数編に過ぎません。これは顎口腔領域では希少疾患が多いことや、適切なデザインのSRやRCTが難しいことなどが原因であり、つくづくエビデンスの確実性を意識したデザインでの大規模研究の必要性を感じます。特に広範囲顎骨支持型装置・広範囲顎骨支持型補綴に代表される顎骨再建インプラント治療に関しては絶対数も少なく、口腔外科、インプラント、補綴など分野をまたいでいることから、そもそも専門家の数も限られています。このため本領域では論文だけでなく確固たる教科書やマニュアルもほとんどない状況でした。

そのような理由から、診療ガイドラインの形ではなく各専門医の叡智を集めた「顎骨再建とインプラントによる治療指針」が作成された訳ですが、そこには嶋田理事長をはじめ諸先生方の大変なご苦労があったことと存じます。

今後は、いよいよ本学会主導の広範囲顎骨支持型装置・広範囲顎骨支持型補綴に関する多機関共同研究が始まります。こちらは透明性の高い共通のプロトコルを用いて行われ、各施設での実態調査(後ろ向きコホート研究)とインプラント治療前後の介入効果の検討(前向きコホート研究)の二本立てとなることです。本研究によって顎骨再建インプラント治療とその併発症管理の標準化が進むことが大いに期待されますので、あらためて会員の皆様のご協力をお願い申し上げる次第です。

(総務広報委員会 苜生田整治)

【学会事務局】

公益社団法人 日本顎顔面インプラント学会事務局

〒108-0014 東京都港区芝5-29-22-805
TEL：03-3451-6916 FAX：03-5730-9866
E-mail：info@jamfi.net